

猟奇殺人の裏に、私たちの知らない「世界」——
刑事が追うのは国境を超える犯罪か、それとも内なる悪か。
現代社会を映す戦慄のサスペンス、日本初演！

2025/2026 シーズン 12月公演
『スリー・キングダムス Three Kingdoms』
ヴィジュアル公開！



(前列 右から)音月 桂、伊礼彼方、夏子 (後列 右から)浅野雅博、伊達 暁

イギリス演劇界の奇才 **サイモン・スティーヴンス**が描く、現代社会の間を深くえぐる衝撃作『スリー・キングダムス Three Kingdoms』が、2025年12月2日より、新国立劇場 中劇場にて**日本初演**を迎えます。

ロンドンのテムズ川で発見された女性の変死体。この殺人事件を追うイギリス人刑事・イグネシアスは、捜査を進めるうちに、ヨーロッパ全土に広がる国際的な犯罪組織の存在にたどり着きます。ドイツ、そしてエストニアへと舞台を移し、事件の真相に迫る一方で、自身の過去の行いを突き付けられ、事態は思わぬ展開を見せていく…

この作品は、イギリス、ドイツ、エストニアの3カ国のクリエイターによる共同制作プロジェクトとして誕生。デイヴィッド・リンチ監督の映画『インランド・エンパイア』から影響を受けたという本作は、単なるミステリーの枠を超え、グローバリズムと資本主義がもたらす影、そして善と悪の曖昧さを問う、戦慄のサスペンスです。

この度、宣材ヴィジュアルとトレーラーが公開となりました！主人公の刑事イグネシアス役を演じるのは、**伊礼彼方**。公開されたヴィジュアルでは、伊礼演じるイグネシアスを中心に、相棒の刑事チャーリー役**浅野雅博**、謎めいたドイツ人刑事シュテツフェン役**伊達 暁**、イグネシアスのパートナー、キャロライン役**夏子**、そして観客と舞台をつなぐミステリアスな存在を演じる**音月 桂**が、薄暗く不穏な空間で取り囲みます。善と悪の境界が揺らぐ、闇の世界へと観客を引き込むような、印象的なヴィジュアルに仕上がっています。

ぜひ御媒体にて本ヴィジュアルとトレーラー動画をご紹介しますようご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

『スリー・キングダムス Three Kingdoms』トレーラー動画

https://youtu.be/GczqOrn_hIY

※ぜひ URL をご紹介いただけますと幸いです。本日 10 月 3 日(金)18:00 に公開します。

公演概要



(前列 右から)音月 桂、伊礼彼方、夏子 (後列 右から)浅野雅博、伊達 暁

『スリー・キングダムス Three Kingdoms』

【公演日程】2025 年 12 月 2 日(火)～14 日(日)

【会場】新国立劇場 中劇場

【作】サイモン・ステイーヴンス 【翻訳】小田島創志 【演出】上村聡史

【出演】伊礼彼方、音月 桂、夏子／佐藤祐基、豎山隼太、坂本慶介、森川由樹、鈴木勝大、八頭司悠友、近藤 隼／伊達 暁、浅野雅博

【芸術監督】小川絵梨子 【主催】新国立劇場

【一般発売日】2025 年 10 月 12 日(日)10:00～

【チケット料金】S席 8,800円／A席 6,600円／B席3,300円／Z席(当日)1,650円

【公式ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/threekingdoms/>

ものがたり

刑事のイグネシヤスは、テムズ川に浮かんだ変死体の捜査を開始する。捜査を進めるうちに、被害者はいかがわしいビデオに出演していたロシア語圏出身の女性であることが判明する。さらに、その犯行が、イツ・ア・ビューティフル・デイの名曲「ホホワイト・バード」と同名の組織によるものであることを突きとめる。イグネシヤスは捜査のため、同僚のチャーリーとともに、ホホワイト・バードが潜伏していると思われるドイツ、ハンブルクへと渡る。

ハンブルクで、現地の刑事シュテツフェンの協力のもと捜査を始める二人だったが、イグネシヤスがかつてドイツに留学していた頃の不幸事を調べ上げていたシュテツフェンにより、事態は思わぬ方向に進んでいくのであった。

<本件に関するお問い合わせ>

新国立劇場制作部演劇 広報担当:杉田 TEL:03-5352-5738 Mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp